

◎今後の学習について①

○授業は、地理の教科書 P 132～P 133 から始めます。

○今後配布予定のプリントの区切りや学習のポイントを以下の表にまとめました。学習やノート作りの参考にしてください。

教科書	タイトル	学習のポイント
P 132～P 133	1 世界の地形	環太平洋造山帯、アルプス・ヒマラヤ造山帯の名前や位置は必ずおさえましょう。造山帯があるところは何か多いのかを教科書 P 133⑤で確認しよう。
P 134～P 135	2 日本の山地・海岸と周辺の海	教科書 P 134②をおさえましょう。フォッサマグナという語句の意味。海岸、海に関しては、太字を学習しましょう。
P 136～P 137	3 日本の川と平野	日本の川と世界の川を比較し、その特徴をおさえましょう。三角州、扇状地、台地の土地利用を学習しましょう。
P 138～P 139	地形図の使い方①	地図記号、縮尺を学習しましょう。1.市役所 2.消防署 3.小・中学校 4.神社 5.警察署 6.病院 7.高等学校 8.寺院 9.田 10.畑 11.果樹園 12.茶畑 13.広葉樹林 14.針葉樹林の地図記号は特に学習しておきましょう。
P 140～P 141	地形図の使い方②	教科書 P 140①等高線の種類はしっかり学習しましょう。P 141 のやってみようを解いてみましょう。 やってみよう解答：1 扇状地 2 水田⇒まっすぐな道路に囲まれ、格子状に並んでいる。 果樹園⇒斜面に沿って樹木が植わっている。学校⇒校舎と運動場が見える。 J R 線⇒写真では地形図ほどはっきりとわからない。
P 142～P 143	4 日本の気候	各気候の特徴と場所を必ず確認しましょう。また、雨温図の特徴も読み取れるようにしておきましょう。
P 144～P 145	5 日本のさまざまな自然災害	日本で発生する自然災害にはどのような種類があり、その災害の影響を説明できるように。 例：地震⇒建物の倒壊、液状化の現象が発生。
P 146～P 149	6 自然災害に対する備え	自助、共助、公助の考え方。さまざまな自然災害に対して、どのように対応していくことが大切なのかを調べ、自分の言葉で説明できるようにしていきましょう。

※次回は歴史の教科書 P 102 からの範囲について、を掲載します。